

## 12) DMP 児変形予防のための膝用具の考察

国立療養所東埼玉病院

板橋 光江 千葉 たみ子  
林 久美子

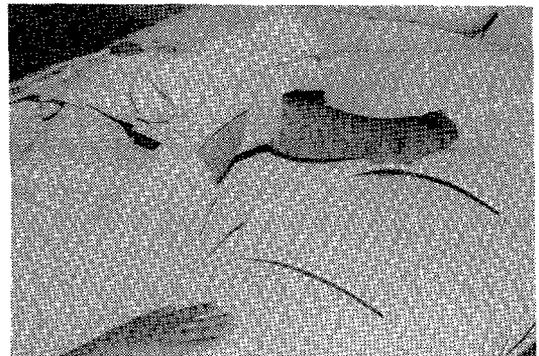
### < はじめに >

当院DMP病棟は開棟して、約6年間を経過しており、その間に歩行児より車椅子生活児の占る割合が多くなったために昭和47年より歩行児を対象として考察された夜間の下肢伸長用具にも不備な点が多くなったために再三改良を加え現在も試作中であるがここに発表する。

### < 経 過 >

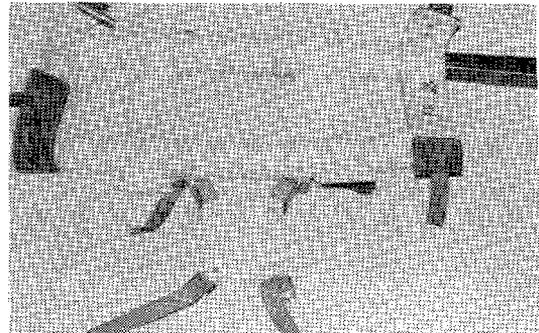
就寝時の体位の調査により障害度の軽い児は仰臥位で下肢はO脚臥位で膝を曲げ胸をだき抱える様な姿勢が多いので内臓器官が圧迫され、同一体位による苦痛を訴え安眠できないために、仰臥位に戻し、下肢を伸屈させる目的で、昭和47年より主に歩行児を対象として写真の様な用具を考察したが車椅子生活児が多くなった現在、日中は車椅子生活のため常に膝関節を屈曲した肢位を余義なくされることにより、ハムストリングの拘縮が強くなり、脊椎の変形をおこし、それによる内臓官の圧迫やベット内での足部の残存節を使つての肢

写真②



位変換も制限され、看護上からもハムストリング部が合さることにより不潔になりやすく、また衣服の着脱時に膝関節を伸屈させると激しく痛みを訴え、更衣に時間がかかる等の諸問題があるので、それを矯正するために、膝関節のみを伸屈して更に変形の予防として、ハムストリングや腸腰筋の伸張と腰椎に重圧をかけない物という考えを重点に当院PT考案による下肢装具として

写真③



- ① 患者に苦痛を与えないもの。
- ② 体動しやすいもの。
- ③ 拘縮の度合によって調節できるもの。
- ④ 体動しても患者に損傷を与えないもの。
- ⑤ 軽くてむれないもの。

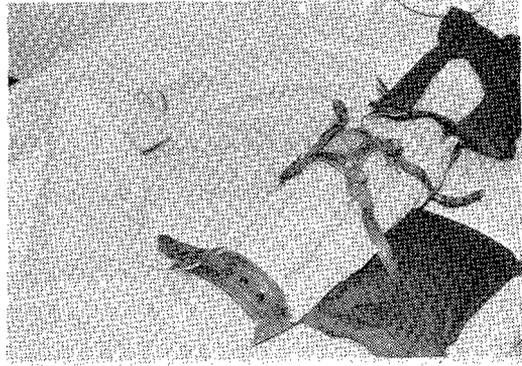
という考えのもとに写真②③のようにフェルトの中にプラスチックの棒を入れたものを試作して現在使用中です。なおベルトは使用しなくなった下肢装具の物を利用した。

## <まとめ>

DMP児にとって膝関節の拘縮変形をきたすということは、脊椎の変形による内臓器管の圧迫等諸問題の原因となることで、日中ではPTの指導のもとに入浴、気泡浴、機能訓練、下肢装具着用や斜面台、起立台による起立訓練等が行なわれているが、人生の為に占める睡眠中の姿勢の変形予防は重大な関心事である。

そのためにいくつかの用具を考察してみたが、尖足の予防とかみ合せ、病院での

生活が長くなり成長するに従って看護用具の工夫もそれに合せて行なわなければならないので更に検討していくつもりです。



## 13) 筋ジス患児(者)に適應する昇降式移動装置

国立療養所八雲病院

野口 房子 湯 浅 柄美子  
佐藤 リサ子

職員の腰痛予防のためと、患児(者)を安全、かつ安楽に運搬でき、排泄も容易とするために、昇降式移動装置を購入した。昇降式移動装置は、1.昇降は手動式、2.移動部、3.担架部(チェアユニット)からなっている。附属品のチェアユニットでは、種々の問題点があり試作改良し、次のような成果を得ることができたので報告する。

問題点として、1.頭受け20cm、背受け40cm、坐受けが38cmと狭くて硬い。

2.坐受けには排泄用の穴があり、坐位に固定されている。

3.下腿受けもなく、肘受けがパイプ製のため、安定性がない。

改良点、1.背受け、坐受け、下腿受けは取りはずし可能とし、巾はそれぞれ50cmで、スポンジ入りレザー張りとした。尚、背受け、下腿受けは押しボタンで、任意の角度に調節できる。

2.排泄用坐受けは、ベンラックの腰かけ板を利用し、必要に応じて坐受けと、とり換えることができる。

3.肘受けにはパイプを取りのぞいて落下防止のため安全ベルトを背受けと、下腿の部位

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

<はじめに>

当院 DMP 病棟は開棟して、約 6 年間を経過しており、その間に歩行児より車椅子生活児の占る割合が多くなったために昭和 47 年より歩行児を対象として考察された夜間の下肢伸長用具にも不備な点が多くなったために再三改良を加え現在も試作中であるがここに発表する。